

会派視察報告書

以下のとおり会派で執り行った視察の報告を致します。

1. 所 属 新風とよあけ
2. 視察日・視察先 平成28年10月17日 千葉県市川市
10月18日 静岡県富士市
静岡県菊川市
10月19日 静岡県島田市

3. 視察内容

千葉県市川市「PFI 事業について」

■ご対応

市議会議長 稲葉健二様
企画部 企画課 主任 笠真由美様
企画部 企画課 主任 伊藤辰浩様
生涯学習部 教育施設課 課長 戸佐薫様
生涯学習部 教育施設課 主任主事 中村裕太様
議会事務局 議事課 課長 佐藤暢一様

■主な内容

〇市川市立第七中学校 PFI 事業

経緯

- ・第七中学校は昭和 38 年に建設され、老朽化が進んでいた。中でも老朽化が著しかった校舎 A 棟について平成 6 年度に耐力度調査をした結果、改築の検討を進めることとなった。
- ・校舎建て替えを機に、給食室も更新し、さらに立地する行徳地域に不足していて、住民からも要望が多かった公会堂、そして保育所、ケアハウス、デイサービスセンターも併設する複合施設とすることになった。
- ・多世代の人々が一棟の建物に集うことで、少子高齢化、核家族化が進む地域において、ふれあい、交流の拠点とすることを目指した。
- ・平成 11 年に施行されたいわゆる PFI 法に基づいて、民間事業者のノウハウや創意工夫を活用して整備することに。



- ・平成 13 年に導入可能性調査のコンサルタントを公募型プロポーザルにより、日本経営システムに決定。
- ・平成 14 年に事業内容を固め、募集要項を公表、3 グループから応募があり、レイアウトに無理がないか、コストが抑えられるかなどを審査し、大成建設、スターツ、上條建設、日本設計のグループに決定。

PFI による整備

- ・ PFI 手法としたことにより、民間事業者から様々な提案があった。
- ・市は 8 階建てを想定していたが、町並みの景観に配慮し、5 階建てまでに抑える提案がされた。また、狭い歩道を拡幅した。
- ・ 3 階と 4 階の間に設備階を設けて、メンテナンスの効率を上げ、ランニングコストを低減している。
- ・市が想定していた総事業費と比べて約 26%削減された。そのぶん、ケアハウスの入居者の自己負担額を想定より抑えることができた。
- ・校舎の屋上庭園やランチルームなど、こどもから高齢者までが自然にふれあえる工夫がされた。



複合施設

地上 5 階 地下 1 階

中学校(7486 m² うち給食室 474 m²)

文化ホール(3077 m²)

保育所(611 m²)

ケアハウス(2468 m²)

デイサービスセンター(393 m²)

- ・総事業費のうち、ケアハウス、デイサービス分は、別で 9 億 5849 万 8000 円で契約し、この分は民間事業者に貸し出す賃借料と、毎年の支出でほぼ相殺されている。
- ・総事業費のうち、残りは 47 億 3729 万 9540 円。その後の契約変更を合わせて約 49 億円の内、約 41 億円が施設建設分、約 8 億円が維持管理分。
- ・複合施設としたことで、施設間の交流が行われているのはメリット。グラウンドやランチルーム、屋上庭園、イベントなど。防災訓練も共同で行っている。
- ・デメリットとしては、細部の責任の所在が明確でないこと。

留意点

- ・こうしたことを実現できるように、という性能発注方式による要求水準書の作成には細心の注意が必要。あまり細々と行政からの要求事項を規定してしまうと、民間の創意工夫、ノウハウを十分活用できないが、過度に曖昧だと、望む水準や内容がうまく伝わらない可能性がある。
- ・あまり小規模な事業では PFI を導入するメリット出にくい。数十億円規模で、創意工夫の余地がある事業であれば有効。

■視察の成果

今後、豊明市において、大規模な公共施設の老朽化に伴う建て替えを行う際、単に建て替えるのではなく、複数の施設を組み合わせることも、その地域に必要とされる施設であれば意味があると思う。

さらには、公共的な施設だけでなく、宿泊施設や商業施設などとの組み合わせも考えるべきだと思う。

その際、数十億円規模になるのであれば、PFI の導入を検討する価値があるだろうと思った。



静岡県富士市「富士市・富士宮市消防指令センターについて」

■ご対応

富士市・富士宮市消防指令センター センター長 消防司令長 山口和也様
富士市・富士宮市消防指令センター システム管理担当 消防司令補 小笠原長純様
総務部 防災危機管理課 課長 笠井洋一郎様
総務部 防災危機管理課 危機管理担当 主査 太田智久様
議会事務局 渡邊貴広様

■主な内容

□富士市・富士宮市消防指令センター

- ・富士市に所在するが、富士市と富士宮市、合わせて 634.03 平方 km、人口約 39 万 1000 人の地域を管轄している。(尾三消防組合・豊明市・長久手市消防指令センター管内は 226.01 平方 km、人口約 31 万 5000 人)
- ・年間火災件数は合わせて 132 件(同 86 件)
- ・年間救急出動件数は合わせて 15048 件(同 10758 件)
- ・消防団員は合わせて 1572 人(同 1031 人)多いようだが、定数 1840 人は割れている。
- ・通報が入ると発信地点までの距離が表示される。自動的に距離が近く出動できる車両が表示される。
- ・固定電話からの通報であればピンポイントで位置がわかる。携帯電話からだとも誤差が大きい。位置情報を ON にした状態で発信すれば誤差を少なくできる。
- ・現場付近の消火栓の位置、工事で通れない区間などが表示される。
- ・現場から伝送される映像を表示できるシステムもある。
- ・両市別々に同報無線を流せる。
- ・聴覚や言語に障害がある方でも火災や救急などの通報ができる NET119 を導入している。スマートフォンや携帯電話から簡単に通報できる。GPS 情報などで位置もわかる。9/9 現在で登録者は 51 名。



富士市・富士宮市消防指令センターがある富士市消防防災庁舎



携帯電話からの着信 誤差半径 1500m と表示されている

□MCA 無線による画像伝送システム

- ・平成 23 年から無線がデジタル化された際に、現場の様子を映像で見ることができるよう導入した。
- ・通常の防災無線だと基地局が必要で、導入に 6 億円かかる場所だったが、MCA 無線なら、東海移動無線センターの無線網で全域がカバーでき、5、6000 万円で導入できた。
- ・無線機は全部で 229 台導入。
- ・現在は被害状況管理システムを導入しており、スマホで画像を撮影し、メールで送信できるようになっている。こちらがメインとなった。MCA 無線の画像伝送は高画質の画像を送ろうとすると長時間かかる。携帯電話によるデータ通信も途絶えたような場合には使えるかもしれない。



手に持っているのが
画像伝送機能付き MCA 無線機

■視察の成果

豊明市内の浸水が懸念される地域に同報無線を配置する場合、市内の冠水状況などを画像で確認できるシステムにしてはどうかと考え、行政で MCA 無線による画像伝送システムを採用している数少ない例として、視察先に選んだ。

しかし、性能的にあまり期待できないようであった。

無線と組み合わせるのではなく、防犯カメラ兼用として整備する方が早く、効果も大きいかもしれないと思った。

MCA 無線の経済性は再確認できたので、いずれ同報無線を導入するのであれば、有力な選択肢であると思った。

静岡県菊川市「子ども議会・議会報告会について」

■ご対応

議長 内田隆様

議会事務局 局長 五島将行様

議会事務局 主幹兼総務係長 松村光様

■主な内容

□こども議会

- ・市になって 11 年。静岡県内で初めて議会基本条例を制定するなど、市民との距離をいかに縮めるか、色々取り組んでいる。
- ・こども議会を開きたいという声は以前からあったが、一般質問形式だと、子供たちからの質問にどのように答弁するか、準備が困難だという声があり、なかなか進んでこなかった。
- ・28 年度になり、何としてもまずはやろうと、子供たちから質問と言うより、提言してもらって、感想で答える形にして急速に進めた。



- ・答弁者を市長にすることにはこだわった。
- ・実施目的 こども達に模擬議会の体験を通じて、議会や市政について関心を持ってもらおう。また、未来を担うこども達の自由な意見・提言を聞いて、まちづくりの参考とする。
- ・実施日時 平成 28 年 7 月 27 日(水) 午前 9 時～ 12 時 当日午前 8 時 15 分～ 45 分にリハーサルを行った。



平日実施にしたかった。そのためには休み期間にする必要があった。

- ・テーマ 【こんなまちにしたいな 未来の菊川】
- ・実施場所 議事堂(市役所 4 階)
- ・実施主体 菊川市議会 協力者 菊川市、菊川市教育委員会
- ・参加対象者
 - ①こども議員 17 名 小学 6 年生 各クラス代表者 1 名(市内 9 小学校 16 学級 牧ノ原小 1 学級)
 - ②菊川市議会議員
 - ③市長、教育長、その他執行部(総務部長、企画財政部長、教育文化部長)
- ・実施方法
 - 17 名を 4 グループに分けた。
 - 発表するグループとは別のグループから議長を事務局が選んだ。
 - 原稿用紙 3 枚程度(約 5 分)ずつとした。
 - 1 グループの発表が終わるごとに市長が講評を行った。(全員の名前を必ず入れた。)
 - 2 グループ終わった所で 15 分間の休憩を取った。
 - 最後に教育長が全体講評を行い、閉会后ゆるキャラも加わり、記念撮影をした。
 - 送迎は各家庭にお願いしたが、どうしても都合がつかない場合は、教育委員会が行った。
 - 1 日の傷害保険をかけた。死亡 924 万円、入院一日 5000 円など。一人一日 50 円だが、1000 円以上からだったので 1000 円。
- ・議員には、特に役割はなかった。子供たちが書いてきた手書きの原稿をワープロ原稿に清書した位。当日は視察などで参加できない議員もいた。
- ・こども議員の選抜は各学校にまかせた。先生の一本釣りのところも、クラスの代表として選んだケースもあったようだ。
- ・傍聴者はどの位あるかわからなかったなので、別フロアに 50 名収容の会議室を待機室として用意し、こども議長と発表するグループの保護者等が入れるよう入れ替えすることも考えていたが、実際に傍聴は 30 名で議場に入れた。
- ・我が子の晴れの舞台ということで、保護者などの反応は良かった。初めて議場に入った方がほとんどだった。
- ・学校側から、今回は急だったので、来年度も実施するなら、年間の行事予定に入れられるように前もって決めて欲しいとの要望があった。

□議会報告会

- ・ 11 会場+全体会で 6 月から 7 月にかけて 12 回議会報告会を行っている。
- ・ 議員を 4、5 名ずつの 4 班に分け、3 会場ずつ分担。1 班ずつ応援も加えてある。
- ・ 全部で 500 名程度の参加者。平成 28 年度は 488 名
- ・ 各小学校区で行っている。その地区の人は担当議員にならないというルール。元々も行ってもいけないとしていたが、「どうして顔を見せないのだ」と地域の方から声上がり、応援として顔を見せることは OK となった。しかし、しゃべることはない。
- ・ 女性が参加しやすいよう、児童館で子どもを遊ばせておけるようにした。
- ・ 10 分報告して 1 時間+α 自由討論。
- ・ アンケートを見ると、開催を知った方法で最も多いのは自治会等での会議で 43.62%。次に自治会での回覧文書で 30.35%。議会だよりは 12.11%。



□その他

- ・ 議会基本条例の第 14 条で年一回以上開催することとなっているため、市民各層から市民を招き、議員研究会を開いている。
- ・ 次回はお菓子の店舗の社長さんに打診している。
- ・ 政策討論会のテーマは議員が投票して決める。次年度は公共交通機関について。

■視察の成果

こども議会は、とにかく一度やろうという形で短期間で進めたとのことで、そうするとこういう形でないとなかなか難しかったのだろうと思った。子供たちを公募にし、テーマも自由にした方が、本当に言いたい事がある子供たちが参加でき、多様な意見が聞けたと思うが、そうすると時間がかかる。

時間がない中でも、答弁者を議員ではなく、市長としたことは意味があると思う。

議会が主体であるのだから、もっと議員が関わる形にした方が良いのではないかと思ったが、これも今後の課題であろう。

参加者や保護者の満足度はかなり高いようで、子供たちに議長を任せたり、市長の講評の中で必ず全員の名前を入れるといった工夫が良かったと思われ、こうした点は当市で開催する際の参考になると思った。

年に 12 回も議会報告会をするのは大変だと思ったが、4 班に分けてあるので 3 回ということだった。(応援も入れると 6 回) しかし、報告は最初の 10 分で、あとは自由討議ということだったので、広聴の意味合いがかなり強いように思った。

500 名もの参加者があるのは、回数もあるが、自治会を通した周知の徹底が大きいと思った。当市ではそこが弱いので、是非参考にすべきと思う。

静岡県島田市「図書館自動貸出システムについて」

■ご対応

教育委員会 図書館課 課長 杉山郁夫様

教育部 図書館課 課長補佐兼島田図書館係長 小澤弥栄子様

こども未来部 子育て応援課 課長 菊池智博様

議会事務局 次長兼庶務担当係長 小澤英幸様

■主な内容

□自動貸出システム等図書館サービス

- ・島田市の図書館は 3 館とも複合施設。小学校と併設しているところも。
- ・島田図書館が入った建物は元々アピタだったが、撤退した。地主が組合を作った。市が区分所有し、2、3階を図書館、4階をこども館とした。1FはCOOP、5～10Fはマンション。
- ・建物に対しては優良建築物等整備事業として、国3分の1、県6分の1、市6分の1の補助をした。総事業費は17億1200万円。
- ・市の施設の建設は、中心市街地交流拠点施設整備事業として、40%補助を受けた。総事業費は17億6500万円。
- ・駅に近く、近隣に駐車場もある。1時間無料。ただ、施設内の駐車場は使えず、歩いて5分の所に70台分ある。少し離れていることについての苦情は多少ある。
- ・旧図書館に閉架図書約9万冊を所蔵している。
- ・3階は児童書。多少声を出してもいいよう配慮している。
- ・司書は2階に3名、3階に1名の体制。
- ・20時まで開き、駅に近い立地を生かし、会社帰りに寄ってもらえるようにした。昼ほどではないが一定の利用はある。
- ・利用者数は旧館時代の平成23年度9万5719人から27年度は13万4461人と順調に増えている。貸出点数も37万3789点から41万2719点に増加。
- ・図書館の民間委託は考えていない。
- ・図書館協会で情報を得て、各地に視察に行くなどして勉強している。
- ・本に親しむきっかけをと7カ月健診の時に絵本をプレゼントしている。
- ・図書の購入費は3館と公民館も合わせて3390万円。
- ・新刊雑誌を提供してもらって雑誌スポンサー制度がある。スポンサー数36事業者、雑誌数62誌で、年間52万円ういている。



- ・人口 10 万人中、4 万 9000 人が図書館カードを登録している。

読書通帳

- ・金融機関の預金通帳に似せた読書通帳を発行。貸出履歴を印字し、主に子供たちに読書の楽しさを提供している。交付費用は 300 円。18 歳以下の在住、在学の児童生徒は無料。
- ・設置時には連携ソフト代 168 万円、設定費用 73 万 5000 円がかかった。
- ・運営費用は、読書通帳機貸借事業として、平成 24 年 9 月から 5 年間の総額で 416 万 8080 円。(月々 69468 円)
- ・1 冊に 216 件印字できる。
- ・平成 24 年度に 1 万冊購入。購入費用 294 万円(表紙デザイン費 30 万円込み)。
- ・平成 28 年 9 月末までの交付実績は子ども 3686 冊、大人 401 冊の計 4087 冊。
- ・市内の学校にも協力してもらい、小学 2 年生が来館する際に通帳作成してもらっている。
- ・市内の企業 6 社から 25 万円ずつの協賛金を得て、児童生徒への配布を無料にした。読書通帳に協賛企業名を印刷。
- ・リース期間が平成 29 年度 8 月までなので、他の 2 館への読書通帳機設置も含め、検討の必要がある。



自動貸出機

- ・貸出カウンターでの待ち時間短縮をはかり、子供たちに自分で貸し出し処理をする楽しさを提供するため導入。
- ・一般書フロアに 2 台、児童書フロアに 1 台。
- ・旧館からの移転と同時に導入。施設面積が広がったことから、貸出窓口を増やしたため、人員数への影響はない。今後、自動貸出機を増やした場合は、窓口を減らせる可能性がある。
- ・年代の若い方は抵抗なく利用している。年配の方でも、利用の仕方を教わると、「思ったより簡単」と、引き続き利用される方が多い。児童フロアでは、子どもが一人でよく利用している。



除菌ボックス

- ・子どもが触る本へのウイルスや雑菌の付着を気にする親がいることから導入。
- ・一般書フロアに 1 台、児童書フロアに 1 台。児童書フロアでの利用が多い。
- ・紫外線での除菌なので本を重ねて入れては効果が薄いのだが、間違った利用をしているケースも見られる。



除菌ボックス内部

こども館

- ・昭和 53 年に建てた児童センターの老朽化に伴い、図書館が入る中心市街地交流拠点施設に児童館機能のある施設を新たに設置することになった。
- ・目的は、こどもの居場所を整備し、子ども、保護し、家族と多世代が集まることで、中心市街地に新たな賑わいを創出すること。
- ・遊具は、企画課を中心とする検討チームが静岡県内外の児童対象施設の視察を重ねて選定した。
- ・屋内で体を動かすことができる遊具を念頭に検討した結果、安全性が高く、親子で一緒に楽しめ、デンマークの最新体育理論に基づいて開発されたボーネルンド社の製品を選定した。
- ・有料の遊具エリア「プレイルームぼるね」は 2 時間ごとの入れ替え制。未就学児(要保護者同伴)は無料、小学生 100 円、市内大人 100 円、市外大人 200 円。
- ・オゾン発生機を毎夜 22 時から 6 時間運転し、衛生を保っている。
- ・0 ～ 18 歳までの児童、乳幼児(要保護者同伴)が自由に遊べる児童館機能を持つ活動室がある。各種行事、創作教室等を開催。
- ・生後 2 カ月から小学校未就学児までを対象にした一時託児所もある。平日 1 時間 600 円、休日等は 1 時間 700 円。
- ・平成 24 ～ 27 年度で、ぼるねの利用者は 40 万 5733 人。年平均 10 万人強。活動室は計 11 万 8452 人、年平均 3 万人前後。
- ・平成 27 年から指定管理にしている。
- ・平成 28 年度予算の指定管理料 2650 万円
- ・職員配置 館長 1 名
副館長 1 名
活動室 3 名
一時託児 1 名(副館長兼務、登録保育士 4 名除く)
ファミリーサポート 2 名
プレイルーム 2 名
臨時 9 名(計 18 名)



プレイルームぼるね内部

■視察の成果

駅にも市役所にも近い中心市街地という立地の良さに加え、様々な工夫をすることで賑わいを創出していた。

読書通帳は、子供たちの活字離れを防ぐ良い取り組みだと思った。今はもっと簡易なシステムもあるとのことだったので、検討してみる価値はあると思った。

自動貸出機は、子供でも一人で簡単に使えるものだった。この場合は、移転と同時で、窓口縮小とはなっていなかったが、窓口を一つ減らして自動貸出機とし、人件費削減につなげることは可能だと思った。

こども館は、検討チームが県内外の児童対象施設の視察を重ねただけあり、魅力的な施設となっており、年間平均 13 万人以上が利用している。市外からの来訪も多く、中心地に数多くの親子連れが集まる効果は賑わい創出の意味でも、経済的にも効果が大きいだろうと思った。

以 上